



號 六 十 二 第
 月 一 十 年 四 十 和 昭
 行 發 日 五 日 月 每
 行 發 日 五 日 月 每
 錢 五 金 部 一 價 定 誌 本 一
 錢 拾 六 金 (共 稅) 年 一
 助 之 幸 川 大 編 發 行 發 郵
 一 〇 七 西 座 鎮 區 橋 京 市 京 東
 社 信 通 盟 同 所 行 發

我社無上の光榮

閑院若宮殿下台臨

李錫公殿下にも御成り

陸大生と御共に本社を御視察



陸軍大學校第一學年學生七十名
 は、十月廿五日午前九時半より、
 同校兵學教官小野寺大佐引率のも
 とに本社を見學、ニュース通信事
 業の理論と實際について約二時間
 格にて閑院宮春仁王殿下、學生の
 御資格を以て李錫公殿下の台臨を
 仰ぎ奉り、本社は無上の光榮に浴
 した。

當日は、畏くも、兵學教官の御資
 格にて閑院宮春仁王殿下、學生の
 御資格を以て李錫公殿下の台臨を
 仰ぎ奉り、本社は無上の光榮に浴
 した。

午前九時二十五分、秋雨けむる
 中を先づ李殿下には御付武官村田
 中佐を従へさせられ御着、間もな
 く閑院若宮殿下には北山中佐を従
 へさせられて御到着、古野社長、
 崑山、堀兩常務理事以下御出迎へ
 の裡に四階貴賓室に御少憩遊ばさ
 れたが、その間社長兩常務に拜謁
 を仰せつけられ、古野社長に對し
 ては種々と御言葉が賜はつた。か
 くて兩殿下には九時四十五分より
 八階に於て學生と御共に古野社長
 より約一時間餘に亘つて通信事業
 の國際的實情及び本社機構(別
 項)などに付親しく御聽取、本社
 映畫部作製の「報道挺身隊」を御
 覽遊ばされた。

それより古野社長の御先導にて
 七階の英文部室及びAP、ロイテ
 ル、アパス、DNB等の海外大通
 信社の支局を御巡視、六階の通信
 省分室に於けるニュース無線電信

の發受の狀況に御目をとめさせら
 れ、次で五階寫眞電送室より寫眞
 部各室、三階の編輯局、通信局等
 の執務振りを古野社長の御説明に
 いたし御熱心に御覽遊ばされた。
 閑院若宮殿下におかせられては
 嘗て北支第一線に立たせられた當
 時を御追憶遊ばされ「前線では同
 盟特派員の働き振りを頼母しく感
 じて来た」と御褒めのお言葉を賜
 ひ「通信事業は最も頭腦的な仕事
 に違ひない」と暗に從業社員に勞
 を稱はせ給ふなど、短き御言葉
 の端々にも御理解と御同情の程が
 偲ばれて一入の感激を覺ゆるもの
 があつた

學生は五班にわかれ幹部社員の
 案内で各階を視察、この終了前後
 には一旦四階貴賓室に於て御少憩
 ありし閑院若宮殿下には御豫定の
 如く十一時五十分社長以下の御見
 送りの裡に御歸還遊ばされ、李錫
 公殿下には午後の御視察のため他
 の學生と共に東京朝日新聞社に向
 はせられた。

【寫眞は貴賓室に御休憩の閑院若
 宮殿下と李錫公殿下(御右)、後列
 左より北山中佐、崑山常務理事、
 古野社長、小野寺大佐、堀常務理
 事、村田中佐】

同盟通信社の組織と活動

古野社長御説明要旨

一、世界大戰と思想戰
 第一次世界大戰五ヶ年の體驗は
 世界の各國に對し、近代の戰爭が
 綜合國力と綜合國力の對立抗爭で
 あることを教へた。それは武力戰
 であり、經濟戰であり思想戰であ
 る。

而して武力戰には確固不拔の國
 民的團結と最新科學の粹を集めた
 近代裝備を必要とし、經濟戰には
 國家中心の統制機構を必要とする

二、思想戰とニュース
 然らば思想戰のために如何なる
 準備を必要としたか、世界大戰中
 に全世界に亘つて展開された猛烈
 なる宣傳戰の經驗によつて、各國
 は一つの結論に到達した。それは
 一般大衆を對象とする思想戰の原
 動力はニュースである、國內の輿
 論も、國際間の批判も結局ニュー
 スを基礎として或は起り、或は動
 いた。

三、ニュースと國家代
 表通信社
 而して思想戰の原動力であるニ
 ユースを國の内外に蒐集頒布する
 目的を以て、世界的連繫を組織す
 る機關が國家代表通信社である。
 世界の各國は、この内外ニュース
 の中樞機關によつて對内的には公
 正な國內輿論を作興し、對外的に
 は自國の眞意と實情を世界各國に
 闡明して、國際的發言權を強化す
 ることに努めた。従つて國家代表
 通信社の強弱は世界の思想戰上に
 於ける國力の消長を如實に反映す
 る。

故にこの國家代表通信社を單
 なる民間の營利企業として放任し
 置いてはならない。その擴充強化
 こそ實に國家の重要な責務であ
 るとの自覺を促すに至つたのであ
 る。

四、國家代表通信社の
 世界的連繫

さて、一口に國家代表通信社と
 いつても、地球の上には六十餘箇
 國の獨立國があつて、その國力な
 り國情なりも千差萬別である。従
 つてこれを代表する通信社の大小
 強弱も全く多種多様であるが、現
 在にも角にも一國を對外的に代表す
 る國家代表通信社の数は約三十、
 その主なるものは米國のAP、英
 國のロイター、佛のハザアス、獨
 國のDNB、ソ聯のタス、伊のステ
 ファニ等である。是等三十社間には直
 接又は間接の契約を締結し、ニ
 ユースの相互交換と特派員に對する
 相互援助の精神に基いて、世界的
 連繫を組織して居るのである。こ
 の組織こそ實に世界最大最強の通
 信網で、この通信網を通じて流れ
 るニュースこそ眞に世界輿論の根
 底をなすものであるといふも決し
 て過言ではない。

五、國家代表通信社と
 しての同盟
 而して我日本を代表して、この
 世界的連繫に参加し、日本の眞意
 と實情を全世界に語ると同時に、
 世界各國の實情と動向を日本に傳
 へる重大使命を擔つて生れた通信
 社が、即ち今日の同盟通信社であ
 る。

凡そ世界列強の國家代表通信社
 はAP、ロイター、ハザアス等何
 れも百年に近い歴史を以て、成長
 發達したのであるが、我同盟通信
 社も決して一朝一夕で出来上つた
 ものではない。

六、我國通信社の發達
 過程
 我國に於ける通信社發達の歴史
 は我國力と國情の變遷を如實に物
 語つて居る。元來世界何れの國に
 於ても、通信社の發達は先づ新聞
 社の發達を前提とする。人間の知
 りたいといふ欲求と知らせたいとい
 ふ欲求を充たすために新聞が生

【第二面に續く】

【第一面古野社長御説明 要旨の續き】

れる、我國に於ても世界の各國と 同じやうに、政黨の發達に伴つて 新聞が生れ新聞の發達に伴つて通 信が生れた。明治二十年代に帝國 三十年代に電通が夫々國內通信社 として生れた、次で大正年代に入 った我國の國際關係が愈々複雑多 岐になるにつれ、國際、東方、聯 合等の通信社が對外的活動を目標 として生れた。是等の通信社相互 間には數十年間に亘つて激甚なる 自由競争が行はれ、昭和六年滿洲 事變勃發の當時には、電通聯合の 二社が残つて居た。

滿洲事變の勃發は我國朝野の識 者をして益々強力なる國家代表通 信社の必要を痛感せしめ、幾多の 迂曲曲折と、波瀾重疊の経緯があ つたが、世界の趨勢と時代の要求 は遂に我國に強力なる國家代表通 信社の出現を求めて止まなかつた かくて昭和十一年同盟通信社の結 成により、一國一通信社の態勢成 つて、今次の支那事變に臨み、更 に今回の歐洲戰亂に對し得たこと は獨り我國新聞界のためのみなら ず、我國國際思想戦のために眞に 幸運であつたといはなければなら ない。即ち同盟の結成によつて舉 國一體、官民一途、全く一つの聲 で最も力強く日本を全世界に正し く語り得ると同時に、世界の動き を日本人自らの眼と、耳と、口を 通じて一億の國民に傳へることが 出来るのである。

七、同盟の組織と機構 果して然らば、今日の同盟は國 家代表通信社として如何なる組織 と機構を整へ、日々如何なる活動 を續けつゝあるか。先づ同盟の組 織に關しては、世界通信界の經驗 と、我國新聞界の實情とに鑑み慎 重研究の結果、その組織を社團法 人として、その全事業が國家公共

の目的のために營まらるべきことを 明かにし、その組成分子を一般國 民に對し直接ニュースの報道を業 務とするもの、即ち全國の新聞社 と放送協會とに限定して如何なる 權力も財力もその運営に参加容 許し得ざる仕組とし、以てその不備 性と獨立性を確保したのである。 かくて同盟は國の内外に正確公正 なるニュースの普及徹底を期する に最も適當なる組織を整備し得た のである。

同盟の機構に就ては東京本社を 總務、編輯、通信、經濟の四局に 分ち、これを更に二十九部に細分 して國の内外に散在する百有餘箇 所の總局、支社局と社員二千二百 餘名を統轄し、我一億國民のため その耳となり、口となつて日本を 世界に語ると共に、世界を日本に 傳ふべき同盟本來の使命達成に一 路邁進しつゝあるのである。

八、同盟の對内及對外 活動 同盟の活動を地域的に區分すれ ば、對内的活動と對外的活動に、 内容的に大別すれば、ニュースの 蒐集とニュースの配給とに分ち得 る。即ち國內に於ては東京本社を 中心として、大阪、名古屋、關門 福岡の重要都市四ヶ所に支社、其 他主要都市三十六ヶ所に支局、全 國各地に通信員百餘名を配置し、 三百六十五日晝夜の別なく、中央 から地方へ、地方から中央へと間 斷なくニュースの交流を行つて居 る。これがために北は北海道の 札幌から南は九州の鹿兒島、長崎

を具現する上に最も重大なる役割 を演ずるものといふべきである。 以上、日本全土を結ぶ専用電話線 の外に、過去十有餘年の懸案であ つた國內無線電信放送施設も最近 愈々實現の運びとなり、既に全國 各地に設備を終つて、目下實驗中 であるから、これが實用化の曉に は我國通信事業史上に一新紀元を 劃することとなるであらう。

滿洲に於ては、滿洲事變後世界 通信界に於ける一國一通信社の原 則に基き、滿洲國通信社(國通と 略稱す)の設立を促し、同盟はこ れと姉妹關係を結んで、内外ニ ュースの交流を圖ると同時に、兩社 間には人事の交流をも行つて、絶 えず日滿一體の理想實現に努めて 居る。

同盟の對外的活動に關しては、 先づ支那を中心に北京と上海には 總局を設け、其他の主要地點約五 十ヶ所には支局を置き、四百餘名 の人員を配置して、東亞通信網の 完備を期して居る。更に紐育、倫 敦、伯林、巴里、モスコ、羅馬 を始めとして、歐米各國の重要都 市二十ヶ所には支局又は通信部を 設け、五十餘名の人員を配置して 世界各國に到る處、その國の國家代 表通信社と緊密なる協力關係を保 持しつゝ飽迄も日本人獨自の見地 に立つて、刻々に變轉する各國の 情勢とその動向を、逸早く我國に 報道する重大任務の遂行に精進し つゝあるのである。

九、支那事變と同盟通信 今次支那事變に際しては、報道 無線、寫眞、映畫、聯絡等の擔當 者各々一、二名宛より成る野戰班 數十班を組織して、北、中、南支 の各前線に派遣し、我皇軍將兵と 共に、あらゆる天險を排し、氣象 と戦ひ、病魔を冒しつゝ、我軍進 撃の状況を、或は新聞を、或は寫 眞を、或は映畫を通じて、一刻も 早く銃後の國民に速報すると同時 に、これを世界各國に報道するの 任務に當らしめたのである。この 報道挺身隊の勇猛果敢なる活躍こ そ今次事變の裏面に秘められたる 國民精神の發露であり、報道報國 員にして事件以來この報道戰線の 華と散つた貴き犠牲者は既に五名 を數ふるに至つたのである。

一〇、同盟通信の種類 と分量 かくの如くして或は東亞の大陸 から或は歐米の列強から或は全國 の地方から、或は中央の各方面か ら同盟本社に、晝夜の別なく時々 刻々流れ込む内外ニュースの種類 と分量とは實に夥しいものである。 これを又再び分秒の遲滞なく、整 理編輯し有線無線の電信電話に乗 せて世界の各國へ、全國の各地方 へと速報するのである。同盟が今 日全國の新聞社に配布して居る通 信の種類は内國通信部面では政治 經濟、社會、運動等外國通信部面 では東亞、外信、外經等を始めと して十五六種類にも及び、その總 分量は普通の新聞紙面に組上げて 見て、約十五頁乃至二十頁にも上 るのである。

一、同盟通信の速報狀況 更に一度眼を轉じて今日の同盟 が世界の通信界に列強の大通信社 と相伍して、激甚なる國際的報道 戦を展開しつゝある事實を想起す るときは、近時我國の國際關係が 益々錯雜多岐を極むるにつれ、同 盟の使命の愈々重大性を加へつゝ あるを痛感せざるを得ないのであ る。國際報道戦に於ける同盟の 活動に就て實例を擧ぐれば、昭和 十二年以來、乾谷子、張鼓峰、ノ モンハン等のソ滿國境事件に關し 世界の通信界に於て斷然ソ聯タス 通信社の機先を制したるが如き、 今次支那事變の報道に關しては、 重慶政府必死の宣傳にも拘らず、 上海陥落以後世界各國の通信社を して益々同盟のニュースに依存せ しめたるが如き昨年十月二十七日 武漢完全攻略の軍報道部發表を南 京より東京へ僅に七分間に速報し 更にこれを全世界に轉電して各國 を驚倒せしめたるが如き、本年八 月二十一日英國政府が日英東京會 談に關する聲明書を發表するや、 三、四時間を出でずして我外務省 の反駁書を全世界に放送し、英國 全土の新聞紙をして、これを英國 政府の聲明書と同時に掲載せしめ たるが如き、近くは、十月十九日 より數日間互に互り、ソ聯の内蒙古 新領進撃、重慶に於ける國共兩派 の抗争激化、英國の援蔣政策放棄 等の諸問題をめぐつて、同盟の對 外無線放送ニュースが全世界に一 大反響を捲き起こしたるが如き到 底一々枚舉に遺なき有様である。 かくの如くその日その日の同盟ニ ュースは世界の各國に間斷なく大 小の波紋を描きつゝあるのである。

月部長會議

須藤參事官の講演聴取 月例部長會議は十月四日午後三 時より八階會議室に開會、當日は 特に前駐米大使館參事官たる駐滿 大使館參事官須藤吉郎氏(現外 務省情報部長)を招請し約一時間 に亘り最近の歐米情勢につき極め て有益なる講演を職取、終つて貯 金會の件其他を議し同四時半散會 した。

第三面の 寫眞說明

- 閉院若宮、李鴻公兩殿下の 同盟社内御視察 ①古野社長の説明御聴取 ②③三階編輯室、古野社長御説明 申上げる。 ④六階無電室にて發受信操作を台 際遊ばさる。 ⑤五階寫眞電送室、牛腸寫眞部長 御説明申上げる。

最近歐洲に於ける 宣傳戰を顧みて

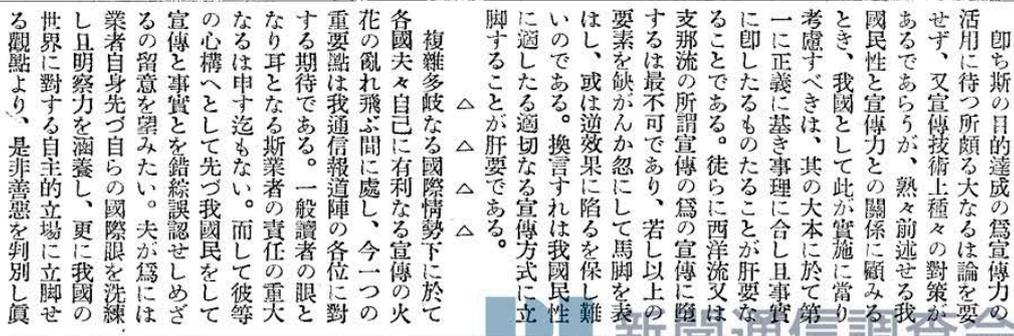
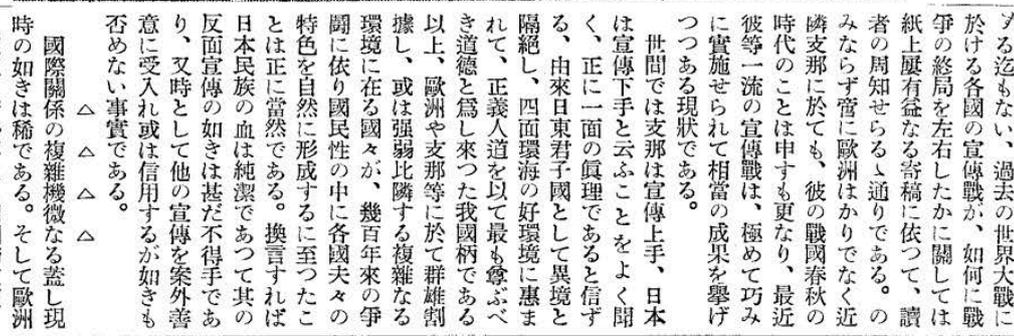
大本營海軍報道部長
海軍軍事普及部委員長
金澤正夫

△ △ △ △ △
今次の歐洲戰爭は、去る八月約一ヶ月に亘る獨逸戰爭に於て、相當果敢なる近代的陸空戰が展開せられたのみで、西部戰線は依然として殆ど固着の儘の状態であり、海上作戦に於て獨逸の通商破壊や獨逸及飛行機の、英國艦隊に對す

る攻撃が稍活氣を呈して居る外、作戦行動は一般に對峙停戦の有様である。此に反して各國の宣傳戰のみは極めて盛んに實施せられ、現在の狀況を以てすれば歐洲戰即宣傳戰とも謂ひ得る實狀に在る。蓋し二十數年前の世界大戰の殘虐なる戰禍に顧み、將又興廢を賭する各國夫々の立場に於て、單純なる速戰即決を期するが如きことなきは勿論、全世界の情勢に稽へて徐ろに戰備の完成を圖りつつ、他方各國

との間に連衡合縱の秘術を盡して有利なる國際關係を確保し、最後に確信ある作戦行動に誘導して、以て最少の犠牲に於て戰爭目的を完遂せんとする複雑なる企圖を藏し、今や正に自國の主張を合理化し且自國戰力の優越を唱道して極力有利なる國際關係の確立を期する爲の宣傳戰が、第一義的に實施せられつつあるものと想像せられる。

△ △ △ △ △
宣傳の重要性に就ては今更説明



める迄もない、過去の世界大戰に於ける各國の宣傳戰が、如何に戰爭の終局を左右したかに關しては紙上屢有益なる寄稿に依つて、讀者の周知せらるゝ通りである。のみならず當に歐洲はかりでなく近隣支那に於ても、彼の戰國春秋の時代のことは申すも更なり、最近彼等一流の宣傳戰は、極めて巧みに實施せられて相當の成果を擧げつつある現狀である。

世間では支那は宣傳上手、日本は宣傳下手と云ふことをよく聞く、正に一面の眞理であると思ふ。由來日東君子國として異境を隔絶し、四面環海の好環境に恵まれて、正義人道を以て最も尊ぶべき道徳と爲し來つた我國柄である以上、歐洲や支那等に於て群雄割據し、或は強弱比隣する複雑なる環境に在る國々が、幾百年來の争鬭に依り國民性の中に各國夫々の特色を自然に形成するに至つたことは正に當然である。換言すれば日本民族の血は純潔であつて其の反面宣傳の如きは甚だ不得手であり、又時として他の宣傳を案外善意に受入れ或は信用するが如きも否めない事實である。

△ △ △ △ △
國際關係の複雑機微なる蓋し現時の如きは稀である。そして歐洲及東亞の情勢が互に相關重複して居る。此に直面し而も曠古の大規模なる支那事變を解決し、東亞新秩序建設の完遂を國家的の使命の途上に在る我國として、外に對しては我正當なる主張と要求を明示して諸外國の無用の誤解ならしむるのみならず、東亞の新事態を克く納得せしめて、進んで我に協力せしむる如く誘導し、又内對しては全國民一致協力の實を具現し、聖戰目的の達成に邁進せしめなければならぬことは當面の覺悟であると信ずる。

△ △ △ △ △
即ち斯の目的達成の爲宣傳力の活用に向つて所願する大なるは論を要せず、又宣傳技術上種々の對策があるであらうが、熟々前述せる我國民性と宣傳力との關係に顧みるとき、我國として此が實施に當り考慮すべきは、其の大本に於て第一に正義に基き事理に合し且事實に即したるものたることを肝要なることである。徒らに西洋流又は支那流の所謂宣傳の爲の宣傳に墮するは最不可であり、若し以上の要素を缺かんか忽にして馬脚を露はし、或は逆效果に陥るを保し難いのである。換言すれば我國民性に適したる適切なる宣傳方式に立脚することが肝要である。

△ △ △ △ △
複雑多岐なる國際情勢下に於て各國夫々自己に有利なる宣傳の火花の亂れ飛ぶ間に處し、今一つの重要點は我通信報道陣の各位に對する期待である。一般讀者の眼となり耳となる斯業者の責任の重大なるは申す迄もない。而して彼等の心構へとして先づ我國民をして宣傳と事實とを錯綜誤認せしめざるの留意を望みたい。夫が爲には業者自身先づ自らの國際眼を洗練し且明察力を涵養し、更に我國の世界に對する自主的立場に立脚せる觀點より、是非善惡を判別し眞相を國民に知らしむることが肝要であると信ずる。即ち此の意味に於て時變下操縦業者各位の責務甚だ大なるを痛感する次第である。

取材は固より諸記事の事扱ひに於ても、極力宣傳と事實とを適切に分別し、以て宣傳戰に對し純眞なる我國民を惑はすことなき様切望して已まない。若し此の事なしとせんか國民は徒らに諸外國宣傳の忠實なる信用者となり、果は我輿論の分裂を來し延ては我國策遂行に影響を及ぼすことなきやを憂ふるものである。

風雲急を告げた 歐洲動亂の前夜

特派記者の苦慮斯の如し

伯林にて 江尻 進

本稿は伯林支局長江尻進君が本社長に宛てた報告書の一部で九月八日發の書信であるから少し舊聞に屬する嫌ひなしとせぬが、今次の歐洲動亂に際し現地駐在の各特派員が如何に苦心してニュース蒐集の重任に當つてゐるかを知らるには誠に好適のものであり、且つ歐洲動亂の前夜を知るべき唯一の手記とも見做し、爰にその一部を掲載する事とした。(係)

去る九月一日ドイツはポーランドとの間に戦端を開き、同三日、英佛兩國はドイツに對し宣戰を布告し茲に歐洲動亂の火蓋は切られました。この經過については既に屢次の電報で十分御承知と思ひますが、之に關して參考までに若干御報告申し上げます。

タンチヒ 問題については

本年春より盛に危機が傳へられて居りましたが、何人も之により歐洲に動亂が惹起されるとは豫想して居りませんでした。然るに八月十九日獨ソ通商協定が成立し、之に次いで同二十一日獨ソ不可侵協定の成立が發表になつてから情勢は俄然悪化し、ドイツは動員を促進してその數二百萬を突破するに至りました。この時既に情勢の悪化はポーランド分割が豫想されましたので、不可侵協定發表と同時に此の觀測を早速打電したのでした。餘りにも真相を報じたため獨外務省より抗議があつたほどでしたが、併しドイツ國民も各新聞も同協定により平和が確保されたと思つて一部外人記者もドイツ側の宣傳に乗じて斯く確信してゐたので、然るに八月二十四日の協定内容

容發表と共に獨ソの提携が非常に鞏固なることが判明し各方面を驚愕させました。之と併行して動員は益々強行され風雲愈々

急を告げ

八月二十四日我大使館當局は在留民に引揚げの勸告を發しました。併し「翌二十五日は夕刻六時までに日本人會に荷物を送れ」とのこととで、各家庭とも大狼狽を來し徹夜で荷こしらへをする有様でした。かくて二十五日夜より二十六日朝にかけて在留邦人の婦女子、旅行者等がハンブルグに向け續々引揚げを開始致しました。ハンブルグ碇泊中の靖國丸は當初の豫定では三十日出港の筈でしたが、狀勢急變のため二十六日夜急遽ルウウェーのペンゲン港に向け出帆したのであります。この頃は既に英佛波の居留民は全部引揚げ、新聞記者も二十五日朝には全部姿を消し危機切迫の感が愈々深くなつて來ました。一方二十五日(ヘンダーソン)英大使がヒトラー總統と會見、外交折衝が開始されましたので

外交交渉

にも一縷の望が持たれましたが、三十日に渡國が總動員を敢行してからは交渉も絶

望となり、三十一日夜九時突如ラジオを通じ「獨波直接交渉拒否」を發表、同夜より國境で衝突が起りました。翌一日ヒトラー總統は午前十時急遽國會を召集したが、我々に對しては午前八時半までに宣傳省に集合せよとの通知があり急いで駆けつけたところ國會の入场券を渡され始めて國會の事實を知るといふ有様で、國際記者團は文字通り東奔西走で疲勞その極に達した。同日早朝には國防軍に進軍命令が發せられ、國會の閉會と共に歐洲情勢は愈々平和解決の途なきに至りました。次いで二日ソ聯新大使が軍事使節と共に來伯し獨ソ提携を誇示。翌三日正午英國は遂に宣戰し、情勢は決定的となり發表よりこの間僅かに二週間でしたが、政局の動きは變換極まりなく、眞相を捕捉するの

相當苦心

しました。幸に安達君が得意のドイツ語を以て宣傳省やドイツ人記者及び佛を中心とする第三國記者團の中を飛廻つて相當情報を集め、小生も外務省

打電檢閱

も嚴重を加へた模様であり又戰況はDNBに打電せしめることにしたので却つて気が楽となりました。我々も長期作戰をとる事とし本社の指令に基き日下滞獨中の邦正美氏(舞踊家)を依頼し友枝君を加へた四名二交代で頑張つてゐます。(下略)

國內放送テスト

成績頗る良好

國內放送テスト

成績頗る良好

第一期計畫廿七支社局

「放送部」の分野確立

今次 同盟職制の改革に伴ひ發信部は「放送部」と改められ、從來の他に新たに國內放送が加へられ名其實に放送部としての分野を確立、對外的には勿論のこと、對内的にもクロージングアップされんとしてゐる。此の國內放送のテストは既に十月十四日より毎日午前

「放送部」の分野確立

九時三十分から午後十時五十分迄
六回、二十分乃至三十分間宛
時間
午前 九時三十分
午後 二時三十分
四時三十分

七時三十分
九時三十分
の六回に亙り毎回假名字五百字乃至壹千字のニュース放送を行つてゐる。此の結果は各支局にも豫想外の好成绩を示し廿七各局中オペレーターの不馴れな爲と

混信

其他の障害に依り多少誤字脱字を出した向もあるが、前回の感度試験當時に比して飛躍的進境を示して居る。今回の試験の目的は機械の感度の良否、混信の有無、受信に要する時間、翻譯に要する時間をテストすると共にオペレーターの試験に各支局翻譯者の訓練を主とする者で、受信した

問題

とならぬが、この間隔を以てする放送でも一中繼以上を要する支局例へば熊本、鹿兒島、高知、函館其他の支局では放送ニュースが電話送信を遙に凌駕し、受信に要する時間は一千字約十五分程度で翻譯等の處理も一千字平均二十分位で完了すると云ふ好成绩を示して居る。オペレーター並に翻譯者が段々訓練されて來ればこの時間は更に短縮される事は明かだ、愈々本格的に一日廿四五回宛四萬字乃至五萬字のニュース放送を實施する事になれば國內片假名放送の

眞價

を發揮し通信界に一時代を劃するに至るであらう。而して現在第一期計畫として受信装置を完了し試験放送實施中のものは大阪、名古屋、關門、福岡各支社、札幌、函館、青森、仙臺、新潟、長野、金澤、富山、京都、神戸岡山、廣島、高知、松山、

大分熊本、鹿兒島、長崎、京城釜山、臺北、小樽、臺南各支局の廿七支社局であるが、更に實際の放送開始迄に全國各縣廳所在地及商業都市に三十五局を

増設

し、之に北支中南支兩總局管下各支局、滿洲國通信社各支局等を包含する總數百數十の支局に同時放送を行ひ晝夜間斷なく刻々のニュースと經濟市況を傳ふる譯で、十月一日既に開通して素晴らしい威力を發揮しつゝある東京奉天間大陸専用電話線、從來の東京札幌間、東京鹿兒島間の各専用電話線、また既に數年前より實施中の對外ローマ字放送等と相俟つて如何なる

天災

地變に際會しても微動だもせぬ完璧を誇る通信機構は確立されるのである。

消息

- △高木凱人君(寫真部員) 海南島作戰に従軍中なりしか九月二十九日歸社。
- △大森吉五郎君(經濟部次長、歩兵少尉) 十月二日廣東に於て公務中顔面及び肩甲骨を負傷し陸軍病院に收容されたが同三十日臺灣高雄病院に移された。
- △齋藤省吾君(名古屋支社) 應召出征中のところ十月五日湖南作戰に於て右手を負傷し目下野戰病院にて加療中。
- △福岡誠一君 十月五日町野内幸町胃腸病院に入院したが十一月二日帝大病院に移り膽石の手術を行った。(帝大病院大槻外科)
- △藤倉吉藏君(寫眞部) 十月二十日北支總局より歸社。
- △小嶺明君(寫眞部) 十月二十一日東京發、廣東方面へ從軍。
- △古橋政治君(英文部) 北支總局へ轉勤となり十月二十六日東京出發。

同盟職制改正

十月六日より實施

本社職制を左の通り改正し昭和十四年十月六日より實施する旨同日附總務回狀第五十三號及び第五十四號を以て發表した。

同盟通信社職制

第一章 總則

第一條 常務理事ハ社長ノ指定ニ依リ第三條ニ定ムル局ノ主査トシテ局務ヲ監理シ又ハ重要ナル社務ヲ掌理ス

第二條 本社ニ參與若干名ヲ置クコトヲ得參與ハ重要ナル社務ノ審議又ハ處理ニ從事ス

第三條 本社ニ左ノ局ヲ置キ各局ニ局長ヲ置ク

一、總務局

二、編輯局

三、通信局

四、經濟局

第四條 局長ハ社長及主査常務理事ノ監督ノ下ニ當該局ノ事務ヲ掌理シ其ノ所管事務ニ付キ總局長、支社長、支局長、特派員及通信員ヲ指揮ス

第五條 本社各局ニ局長ヲ置クコトヲ得局長ハ局長ヲ補佐シ局長事故アルトキハ其ノ指示ニ依リ任務ヲ代行ス

第六條 本社各局ニ部長ヲ置ク部長ハ局長ノ指示ヲ受ケ部務ヲ處理ス

第七條 部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得

第二章 總務局

第七條 總務局ハ左ノ事務ヲ掌ル

一、人事ニ關スル事務

二、文書ニ關スル事務

三、會計及出納ニ關スル事務

四、豫算決算ニ關スル事務

五、用度ニ關スル事務

六、「ニュース」ノ供給ニ關スル社員新聞社及外部トノ交渉及契約ニ關スル事務

七、社務ノ企畫ニ關スル事務

八、出版ニ關スル事務

九、映畫ノ製作及其ノ供給ニ關スル事務

十、航空ニ關スル事務

十一、同盟講習所ニ關スル事務

十二、其ノ他他局ノ所管ニ屬セザル事務

第八條 總務局ニ左ノ部及講習所ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム

一、人事部

二、庶務部

三、經理部

四、業務部

五、企畫部

六、出版部

七、映畫部
八、航空部
九、同盟講習所
第三章 編輯局
第九條 編輯局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、内外「ニュース」ノ蒐集及編輯
二、特別通信ノ編輯及之ニ關スル事務
三、調査ニ關スル事務
四、寫眞、製版ノ製作及其ノ供給ニ關スル事務

第十條 編輯局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、政治部
二、經濟部
三、社會部
四、運動部
五、演藝部
六、外信部
七、東亞部
八、特信部
九、調査部
十、寫眞部
第四章 通信局
第十一條 通信局ハ左ノ事務ヲ掌ル
一、「ニュース」ノ整理
二、電信電話ニヨル「ニュース」ノ送受信
三、内外ニ對スル放送「ニュース」ノ編輯
四、英文通信ノ編輯
五、本社ニ於ケル通信ノ印刷及配達
六、「ニュース」ノ送受信施設ノ技術及運用ニ關スル事務
第十二條 通信局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、整理部
二、地方部
三、滿洲部
四、放送部
五、英文部
六、發送部
七、技術部
第五章 經濟局
第十三條 經濟局ハ左ノ事務ヲ掌ル

第十四條 經濟局ニ左ノ部ヲ置ク各部ノ事務分擔ハ社長ノ承認ヲ經テ主査常務理事之ヲ定ム
一、外經部
二、內經部
三、商況部
第六章 總局及支社
第十五條 海外及國內樞要ノ地ニ總局又ハ支社ヲ置キ總局ニ總局長、支社長ヲ置ク
第十六條 總局長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ總局ノ事務ヲ掌理シ且總局管内各支局ノ事務ヲ監督ス監督スベキ支局名ハ別ニ社長之ヲ指定ス
第十七條 支社長ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支社ノ事務ヲ掌理シ本社各局長ノ所管事務ニ付テハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
第十八條 必要ニ依リ總局又ハ支社ニ部ヲ置キ事務ノ分擔ヲ爲サシムルコトヲ得
第十九條 必要ニ依リ部ニ部長ヲ置ク、必要ニ依リ部長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第七章 國內支局
第十九條 國內主要ノ地ニ支局ヲ置キ各支局ニ支局長又ハ支局主任ヲ置ク
第二十條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第八章 海外支局

第二十一條 海外必要ノ地ニ支局ヲ置キ各支局ニ支局長又ハ支局主任ヲ置ク
第二十二條 支局長又ハ支局主任ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ支局ノ事務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
必要ニ依リ支局長ノ下ニ次長又ハ主任ヲ置クコトヲ得
第九章 特派員及通信員
第二十三條 國內及海外必要ノ地ニ特派員又ハ通信員ヲ置ク特派員及通信員ハ社長及常務理事ノ命ヲ承ケ當該地方ノ「ニュース」報道及特ニ命セラレタル社務ヲ執行シ本社各局長ノ所管事務ニ關シテハ當該局長ノ指揮ヲ受ク
特定ノ事件又ハ事變ヲ報道スル爲メ當該地ニ臨時派遣セラレタル特派員亦之ニ準ス
附則
第二十四條 本職制ハ昭和十四年十月六日ヨリ之ヲ實施ス
昭和十二年六月七日制定職制ハ之ヲ廢止ス
(總務回狀第五十三號)
△職制改正に伴ふ所屬變更ノ件
今同社團法人同盟通信社新職制實施と共に從來ノ職制は廢止となりました。仍て舊職制に依る本社各局長主任以上ノ職務は一應解消し新に別紙の通り任命することにしました。本回狀を以て辭令に替へます。

右以外ノ本社勤務職員ノ新職制に依る所屬は別に辭令を用ひず左の通り勤務を命ずることに致します。
一、舊職制ノ部名に變更なき部に所屬ノ者は新職制ノ同一名ノ部に所屬すること。
二、舊職制ノ部を廢止したる部に所屬ノ者は左の通り所屬すること。
(舊) 聯絡部—地方部
發信部—放送部
タイプ部—整理部
規畫部—技術部
(總務回狀第五十四號)
△部名變更ノ件
總支社局に於ける在來ノ部は大坂支社ノ業務部を廢止する外新職制實施後に於ても其儘存續し社員ノ所屬も從來通りとします。只部ノ名稱を左の通り改正し部長、次長主任ノ職名も同様改正します。
(舊) 通信部—編輯部
聯絡部—通信部
(新) 國民體育大會の記録「若き日本」
映畫「若き日本」
同盟映畫部製作
厚生省主催第十回明治神宮國民體育大會は秋氣爽涼の十月二十九日より六日間に亘り絢爛たる學國スポーツの繪巻を繰り展げ、聖戰下の秋銃後四萬の若人が若き日本の力を相競ぶてゐるが、今回明治神宮國民體育大會が國家管理の下に行はれるに際し我が「同盟ニュース」は厚生省後援指導の下にこれが記録映畫の製作に全力を傾注神宮競技六日間の唯一の報告書として完成することとなつた。
明治神宮國民體育大會の趣旨は銃後一億國民が二年間鍛へた體力の總決算であり、若き日本の力を明治神宮外苑に於て明治大帝の御前に捧げることである。いま茲に記録映畫「若き日本」に収録する全國若人の輝く活躍記録は世界スポーツの最高水準線を描き、貪りたる日本を全的に描き、貪りたる銃後國民の意氣を傳へて餘すところなき珠玉篇であると信ずる。全二卷、十一月十日完成の豫定。

歐洲戰と海上權

大熊大佐の講演 大要

大本營海軍報道部大熊大佐は去る十九日午後五時半から八階會議室において同盟社員のため「今次歐洲戰と海上權」と題し前回の戰とを比較、興味ある潜水艦の話など約二時間にわたつて講演をなし、終つて質問に應答八時過ぎ散會したが誠に有益な催しであつた。講演の大要左の如し。

軍需補給路確保の必要性
ドイツがいま西部戦線に對して活潑な行動に出ないのは軍需補給路の確保を必要としてゐるからで、近代戰の資材を海洋を隔てて獲得することはイギリス艦隊のため遮断されてゐるから望めないドイツとしては、先づソ聯ルーマニアあたりから求めねばならぬ、ドイツがルーマニアを討たぬのはその石油が欲しいからで、自國とこれ等の國との間に軍需品の補給路を確保しておくことが何よりも必要となつて來た、従つて早急の積極的行動は考へられぬ。

海上警備の問題
前回のジュットランド海戰でドイツは辛うじてイギリスに勝つたが、その時の海軍力はイギリス一〇に對してドイツ六であつた、今回はイギリス一〇に對してドイツ一・五で北海の制海權は全くイギリスの手中にある、従つてドイツとしては飛行機、潜水艦による所謂ゲリラ戰法に出でざるを得ないこれによる漸減戰、通商破壊戰をやつてゐる、この通商破壊戰は大別して潜水艦によるもの、飛行機によるもの、戰艦巡洋艦(豆戰艦)によるものなどがある。

潜水艦によるもの
これに備ふる英商船隊は集團護衛主義を採つてゐる、周圍を軍艦に護られその殿りにゐる航空母艦から絶えず飛行機を前方放射射撃に飛ばして敵襲、潜水艦の偵察に當らせ常にジグザグ航法をとつて魚雷の射撃を避けつゝ進んでゐるようだがこの場合最も危険な位置にある航空母艦が先般遂にドイツ潜水艦のため血祭りにあげられたことは知る通りでこの戰法は既に前回大戰で試験済みのものである。

飛行機によるもの
試験済みでないものに飛行機による通商破壊戰がある、これは集團が陸地附近に來たとき或は港内に入つたとき爆彈の雨を降らすといふやり方でまた海洋で潜水艦に協力してやらせることも考へられる。

戰艦巡洋艦によるもの
ドイツの豆戰艦アドミラルシェアーが南太平洋に出沒して英佛の商船を脅かしてゐるようだが、これを討つにはイギリスに同級のフッド、レパルス、レマウソンの三艦がある、然しこれはイギリスとしては北海の護りにおいておく必要があり速く出動させる譯にはゆかぬ、そこでフランスをして對抗艦一隻を同方面に出動させた模様である。

UICの偉勳
スコットランドの北端オークニー諸島のスカパーフローは英本國艦隊の根據地でドイツはこゝを狙つてゐるから將來も必ずや目ざましい飛行機、潜水艦の活躍があるだらう、多數の島にかこまれた要害の軍港で島々間の入口は四五重

重の嚴重な潜水艦防禦施設で固められてゐるが、その中へ大膽にもドイツ潜水艦Uボートがぐり込み戦艦ロイヤルオークを撃沈レパルスを襲撃して逸早く脱出したことは驚異とすべきだ、數々の防禦線

を縫ひ英艦隊にくつゝいて暗夜潛入したものだらう、フッドも飛行機の爆撃を喰つて入渠中の寫眞をドイツが手に入れたといつてゐるからそうするとシエアーに對抗する三艦のうち二はいまだやられたことになりイギリスとして大打撃だらう、ドイツの損害についてはイギリス側は潜水艦四十隻のうち最近十八はやつたといひ、ドイツ側は三ばいよりやられてゐないと言つてゐる。中をとつて十ばい位

太平洋戰の特異性
池の中で戰爭をやつてゐるような北海でこそ豆戰艦や飛行機、潜水艦が大いに物を言ふが太平洋や日本海のような大洋に出ると非常に違ふ、何といつても大戰艦ははじめ多數多種の艦艇が絶対に必要であることを忘れてはならない。

今次歐洲戰の前途
ドイツとしては速戰即決を望んだが今次戰も、先づ相當長期にわたるだらうとの見透しはついていたが今となつてはドイツも即決主義に

は出ないだらう、軍事行動が冬期困難なること長期戦に備へる前途の軍需補給路確保の必要、ポーランド内の掃蕩がまだ残つてゐることなどが考へられるからだ。

對米問題
アメリカの輿論は反獨思想の熾烈なるは勿論であるが對日感情も極めて悪い、ある有力な雜誌が今次歐洲戰でイギリスとドイツと何れが勝つのを欲するか、何れが勝つと思ふかといふ質問を有識階級十萬名に發したところ、イギリスの勝を欲するもの八三・一パーセント、同ドイツ一パーセント、同ドイツ三パーセントを示した、アメリカ海軍の太平洋作戦は着々進められてゐる、艦隊の整備根據地の増強その他實戰に必要な操作訓練は遺憾なく行はれてゐる、この目標が何れの國であるかは明白だ、支那に於けるイギリスの後退に代つて東洋の番犬をつとむるものはアメリカをおいて他になしとしてゐる、やがて生れる新政權とイギリスの紛争は日本とアメリカの紛争である、新東亞建設のため日本の主張は絶対に後退を許さぬ、この際深く對米認識を新たにすることを切言したい。

南京だより
清澄碧空の秋の大陸
南京支局 O・A・K 生

新開休日の嬉しさは東京も支那も變りはない。假令東京近郊のよりに氣の利いた温泉郷はないとしても我が南京には實に賞嘆す可き「城外頭」を持つ。平常はガリ板

前に果てしなく展開し、支那幾千年の歴史が一木一草にも

興亡の歴史が一木一草にも

幾千年の

前に果てしなく展開し、支那幾千年の

幾千年の



馬車を驅つて附近の樹林中でさゝやかなる野宴を張つた。それから更に中山陵下まで

大陸の

秋も未だ「林間に紅葉を焚く」ほどには至つてゐないが、豫め用意された壽司、サンドイッチそれからビールにサイダーは一同の食欲を満すに十分で、支那人社員の如きは分配おそしと小兒のやうに歡聲を發する始末、食後は自由時間として

夫々附近に思ひの行樂を擅にしたが中山陵の如きもつい最近まで正寢屋上に施されてゐた迷彩は今もなく、青一色に塗り潰された屋根瓦は碧空に劃然と聳へ、整齊された參道と相俟つて

二年前の生々しい戰禍の記憶を漸く腦裡から去らしめ、新東亞建設の第一歩を象徴してゐるものとしてこの上ない好印象を一行に與へた(寫眞は當日の紀念撮影)

南京だより

清澄碧空の秋の大陸

南京支局 O・A・K 生

新開休日の嬉しさは東京も支那も變りはない。假令東京近郊のよりに氣の利いた温泉郷はないとしても我が南京には實に賞嘆す可き「城外頭」を持つ。平常はガリ板勝地へのピクニック案を決定、直

九十餘名、昨今の南京城外
清遊としては却々豪勢なものだ。さて十月十七日正午過ぎ、一同は南京復興路の同盟通信社ビル前に集合、春ならで「秋は馬に乗つて」とばかり十臺の馬車と四臺の自動車を通ね、清澄そのもの大陸の秋空下、一行は中山東路から中山門を経て先づ明の孝陵に到着した。紫金山麓の蜿蜒たる丘陵は眼

夫々附近に思ひの行樂を擅にしたが中山陵の如きもつい最近まで正寢屋上に施されてゐた迷彩は今もなく、青一色に塗り潰された屋根瓦は碧空に劃然と聳へ、整齊された參道と相俟つて

前に果てしなく展開し、支那幾千年の歴史が一木一草にも

新聞とスポーツ(二)

秋山慶幸

明

治三十六年頃からの萬朝報、時事新報がスポーツに示した關心は、當時の新聞として異色であつたが、此の中にあつて政界の感星秋山定輔氏の主宰する二六新報はまた最も特色ある野球記事を掲載して當時の青年婦女の人氣を博した。筆者は我が國運動記者最古の人で然も今なほ國民新聞に或ひは北海タイムス、河北、新愛知、福岡日等に麗筆を揮つて健在振り示して居る太田茂氏(四州)で、太平記張りの野球觀戰記は前掲の萬朝報或ひは時事新報記事の如き平易さこそ無ければ正に血湧き

肉

躍る名文は讀者の大好評を博した。二六新報社が野球記事を掲載した動機は社長秋山氏の意志によつたもので、此の時派遣された記者が入社早々の野出記者四州太田茂氏、然も記事は大好評を博し、その名文は野球のみでなく、社長の命令によつて庭球戦記にまで及んだと言ふが、當時を述懐する太田氏の説く所に據ると、秋山氏のスポーツに對する卓見は大したものであつたと言ふ。

斯

くの如くスポーツが新聞紙上に現れ出したのは明治三十六年に行はれた早慶野球戦を契機として漸く活潑となり、降つて三十七年には前年來風雲急を告げつゝあつた日露の國交は遂に決裂、戰雲滿洲の野に漲る中にも發達の緒にいたしたスポーツ界は、

戰

前豫想記を掲載して世人の記事を読むと、現在の運動記事に對比して甚だ興味あるものがある。特に二六新報に掲載された太田氏の筆になる野球戦記或ひは庭球戦記等は是非とも一度は此の紙上に掲載し度い心算であるが、不幸筆者は目下明治神宮國民體育大會を目前に控へ、これが準備に忙殺されて居るため筆寫の暇なくその機を得ないが、次號迄には全部を揃へると共に、當時のスポーツ記事に就いて更に精査報告の必要有りかと考へて居る。さて問題は明治三十七年

春

の早慶野球戦であるが、此の年の二月六日ロシアと國際關係決裂した日本は、八、九兩日には早くも第一回旅順攻撃を執行し、三月廿七日には第六回旅順攻撃が行はれ、海では此の日第二次旅順港閉塞が行はれて瀕瀕中佐が旅順港外に花と散る等戦争気分漸く高潮、五月に入つて戦況ますます發展、第二軍は金州を占領、南山でも大激戦が行はれて當時の新聞紙上は戦争記事で埋められ、特に早慶野球戦が行はれた六

觀

念の相違等々色々大きき或ひはスポーツに對する現下の日本運動競技界が餘りにも時代に陥り、餘りにも萎縮状態にある事は自らその使命や地位を破壊する態度であり所謂指導者の存在を疑はしめるものがある。過ぐる歐洲大戰に際してもスポーツに關する色々な資料や語り草が傳へられて居るが、今次の歐洲戰亂を對して我々はスポーツと言ふ物に

從

つて此の一文を草する筆者的觀點がまた此處に集注するの致し方の無い所であるが、此の時東京大相撲五月場所も亦開催中で、早慶野球戦當日の四日はこの五日目、當時は名力士梅ヶ谷の全盛時代、五日間開放して居たが此の方は戦争で人氣が餘り立たなかつたが、勿論新聞は相撲記事の報道に意を所無かつた。何れにしても今日より三十六年位の前の日本も亦今日の如く國運を賭する様な大戦争の最中にあつてなほスポーツを行つて居り、この秋バルチック艦隊愈々北海に出る等の報ある十月此の年二度目の早慶野球戦が行はれ、然もその翌年の明治三十八年には早大野球部の米國遠征といふなど當時としては正に破天荒な大事業迄行されたのである。勿論當時と今日とを比較すれば、その間社會情勢の大激變或ひはスポーツに對する

促

して居るが、これは當然の事で、更に語を次いで「如何にしても兵士と成り得ぬ事情に在る者は戰場に起つ心持ちでスポーツを行へ、スポーツに行け」と青年にハッキリとその成す可き事を指示して居る。此の國は既に知られて居る如く歐洲大戰の結果、最も苛烈な状態に置かれ、これが復興を先づ經濟力の復活にと言ふモットーで立上つて失敗し、ナチ政權出づるに及んで、國

我

國にとつて大いに味ふ可きものが有り、此の意味で今秋の明治神宮國民體育大會の如きは國家行事として大に意義あるものとなしなればならない。「新聞とスポーツ」は意外にも一轉して「戦争とスポーツ論」に入りかけたが、本稿はもとより新聞或ひは新聞事業とスポーツの相互關係を述べんとするのが本旨であるから附言したまでで、何れまた筆を改めて本題に入らう。

飛躍的擴張の

同盟講習所

同盟講習所は九月の新學期より本社從業青少年の外に新に社外の優秀なる青年を選抜して將來の同盟人物資源の涵養に努める事として急激なる生徒数の増加を見るに至り、十月十日現在の生徒數左の如し。

比谷公園市政會館内に移轉すると共に教授内容及講師陣容をも一層充實した、即ち從來の講師に加へて新に電信科に中央電信局の荒木山上兩氏を、速記科に貴族院の安田氏を招聘し、寫眞科には寫眞經營と修整及映畫の三科を加へ夫々社内専門家に講義を委嘱し又豫科に於ても理科、地歴等の新科目を加へ文理大より講師を招聘した別に今學期より滿洲國通信社の委託生として電信、寫眞に四十名を入學せしめ毎日午後四時より歐和文電報の翻譯、滿洲國事情等の特殊授業を加へて實際的教育に主力を注いで居る。

同盟講習所と密接の關係にある

互助會報告

(十月)

△出生

伊藤 大二(本社經理部)第二子男
安藤 利男(バダビヤ支局長)第三子男
子女
半谷 高雄(本社東亞部)第二子男
小寺 重信(同) 運動部 第二子男
武田 尚昌(同) 運動部 第二子男
瀧山 芳郎(同) 外信部 第一子男
竹之内 萬五郎(同) 地方部 第一子男

△結婚

望月 七郎(本社商況部) 大應召
伊藤 大二(本社經理部)

△退社

吉本 健吉(本社商況部)
湯淺 義正(同) 經理部
村上 富男(同) 經理部
古田 文枝(同) 地方部
川上 銀男(同) 社會部
田中 勝俊(同) 調査部
中山 智雄(同) 經理部

△病氣見舞

細波 孝(本社規畫部) 夫人入院
邊 成 烈(同) 英文部 夫人入院
猪伏 清(同) 政治部 子供入院
岩崎 敏人(同) 經濟部 長女病氣
西村 二郎(同) 政治部
萩原 榮治(同) 放送部 子供入院
藤澤 邦男(同) 技術部 夫人病氣
本多 文吉(同) 出版部
坂口 榮(同) 上 妻子入院
平岡 慶次(同) 運動部
秋葉 武雄(同) 政治部 執務中負傷

△弔慰

福澤 延一(本社東亞部) 實弟死亡
原 進一(同) 發信部 實父死亡
峰村 新一郎(同) 整理部 實母死亡
白石 覺(同) 技術部 實父死亡
小寺 重信(同) 特信部 長男死亡
岩崎 敏人(同) 經濟部 長女死亡

科目	本社	國通	計
電信科	四五	二六	七一
寫眞科	一五	九	二四
速記科	二〇	—	二〇
タイプロ科	六	—	六
豫計	三二	—	三二
計	一一三	—	一一三

右の如く急激なる生徒増加によつて内幸町の舊館校舎は狹隘を感じるに至つたので九月下旬より日

麻布市兵衛町の同盟學寮も既に十五名の大世帯となり、本社青少年從業員の「楽しい我が家」としての本領を發揮しつつある。

